

史跡西条古墳群  
保存整備事業報告書

2017

加古川市教育委員会





卷頭1 史跡西条古墳群(北東から)



卷頭2 行者塚古墳全景(南から)



卷頭3 行者塚古墳南東エントランス(南から)



卷頭4 行者塚古墳西造り出し復元展示①(西から)



卷頭5 行者塚古墳西造り出し復元展示②(西から)



卷頭6 人塚古墳全景(北東から)



卷頭7 人塚古墳南エントランス(南から)



卷頭8 人塚古墳周濠の復元（北西から）



卷頭9 人塚古墳瓦窯跡の明示（東から）



卷頭10 尼塚古墳全景（北東から）



卷頭11 尼塚古墳全景（西から）

## 序 文

西条古墳群は、行者塚古墳・人塚古墳・尼塚古墳という3つの古墳で構成され、昭和48(1973)年に国の指定を受けた史跡です。日岡山古墳群や平荘湖古墳群などとともに加古川市を代表する古墳群であり、加古川下流域における古墳時代の歴史を考える上で重要な遺跡です。

加古川市では、平成6年度に「加古川市西条古墳群史跡整備委員会」を設置し、西条古墳群の史跡整備事業を開始しました。同年に「整備基本計画」を策定し、平成17年度には尼塚古墳について「実施設計」を策定し、平成18年度に整備工事を実施しました。平成19年度には行者塚古墳の「実施設計」を策定し、平成20年度・21年度に整備工事を実施しました。残る人塚古墳は、平成24年度に「実施設計」を策定し、平成25年度から平成28年度にかけて段階的に整備工事を実施しすべての事業が完了しました。本書はそれらの内容を報告したものとなります。

整備事業の実施にあたりましては、文化庁、兵庫県教育委員会をはじめとする諸機関、史跡整備委員会の先生方に多くのご指導・ご助言をいただきました。また、地元住民の方々をはじめ関係各位のご理解・ご協力をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

平成29年3月

加古川市教育委員会  
教育長 田潤博之



## 例　　言

- ・本書は、平成6（1994）年度から平成28（2016）年度にかけて実施した、兵庫県加古川市山手二丁目所在の国指定史跡西条古墳群の保存整備事業報告書である。
- ・本事業は、史跡西条古墳群史跡等・登録記念物保存修理事業として、国の国宝重要文化財等保存整備費補助金、及び兵庫県の文化財保存整備費等補助事業補助金を受けて、加古川市が実施した。
- ・事業の実施にあたっては、学識者からなる加古川市西条古墳群史跡整備委員会を設置し、同委員会および文化庁記念物課の指導に基づき事業を進めた。
- ・本書の執筆・編集は、山中リュウ（加古川市教育委員会文化財調査研究センター）が行った。
- ・第Ⅰ章の記述は、森下章司・西村秀子（編）2012『加古川市西条古墳群　尼塚古墳』（大手前大学史学研究所）の記述を元に執筆した。
- ・本書に掲載の図面類は、加古川市教育委員会発行の発掘調査報告書掲載のものや、整備事業に際して策定された基本計画や実施設計時に作成されたもの、整備工事の際に加古川市公園緑地課が作成したものを中心を使用した。
- ・本書に掲載の写真は、加古川市教育委員会発行の発掘調査報告書掲載のものや、その後の整理作業において新たに撮影したもの、整備工事の際に現地にて撮影したもの及び本書作成にあたり改めて撮影したものなどを中心に使用した。
- ・事業実施にあたっては、文化庁、兵庫県教育委員会からご指導、ご助言をいただいた。また、整備工事、発掘調査において多くの方々にご協力をいただいた。

## 目 次

例言

目次

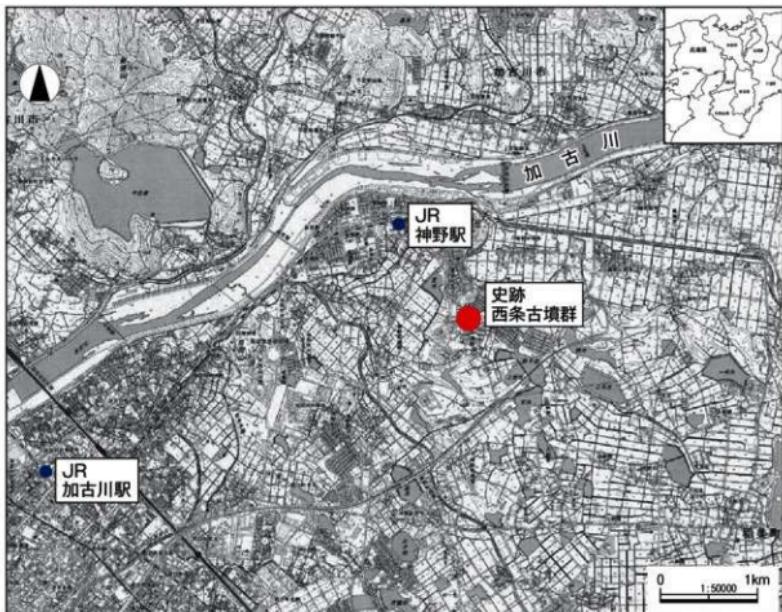
第Ⅰ章 全体概要 .....	1
第1節 史跡西条古墳群の位置と環境 .....	1
第2節 史跡整備事業の概要 .....	2
第Ⅱ章 整備に伴う調査の概要 .....	8
第1節 行者塚古墳 .....	8
第2節 人塚古墳 .....	37
第3節 尼塚古墳 .....	57
第Ⅲ章 保存整備事業の経過 .....	69
第1節 保存の経過 .....	69
第2節 基本計画 .....	71
第3節 実施設計 .....	79
第4節 整備事業の経過 .....	90
第5節 史跡整備委員会 .....	96
第6節 整備事業費 .....	107
第Ⅳ章 整備概要 .....	109
第1節 尼塚古墳 .....	109
第2節 行者塚古墳 .....	117
第3節 人塚古墳 .....	135
第Ⅴ章 まとめ .....	156

# 第Ⅰ章 全体概要

## 第1節 史跡西条古墳群の位置と環境

**地理的環境** 西条古墳群は、加古川市山手二丁目地内に所在する国指定史跡である。行者塚古墳、人塚古墳、尼塚古墳の3基で構成され、昭和48(1973)年に国史跡に指定された。

地理的には、加古川左岸に近い城山(標高85m)から南に向かって伸びる台地上に位置しており、JR加古川駅から北西約5kmの場所にある。加古川と明石川の間に広がるいなみの台地の西端付近にあたる。いなみの台地は、大阪層群を基盤とし、その上部は高位段丘層に覆われている。加古川の流れはこのいなみの台地の西辺に流域を形成するが、西条古墳群の周辺は、小野市との境界付近から続く「狭窄部」にあたる。南西の日岡丘陵に続くこの狭窄部を経て、下流域に扇状地状の平野が広がることとなる。



第1図 周辺地図

**歴史的環境** 西条古墳群は、以前には数十基の後期群集墳をふくむ古墳群であったが、昭和38年度以降の県営住宅地の造成によってそのほとんどの古墳が消滅した。の中には弥生時代終末期の墳丘墓で内行花文鏡を出土した西条52号墓も含まれる。現在では行者塚、人塚、尼塚古墳の3古墳のみが残されている。

人塚古墳のすぐ脇には、兵庫県指定史跡西条庵寺が存在する。塔心礎や瓦の散布によって古くから寺院の存在は知られていたが、昭和のはじめ頃に考古学界にも報告された。昭和56（1981）年～58（1983）年の発掘調査によってその全容が明らかとなり、平成6（1994）年に史跡公園の整備が完了した。

このように西条の丘陵には、大型の古墳、古代寺院など重要な遺跡が集中する。いなみの台地の西端にあって、加古川の流れを望む位置にある。また周辺には、日岡山古墳群をはじめとした特色ある古墳が数多く分布している。他にも、加古川の河口には「鹿子水門」が存在したとされ、また平野の南寄りには古代山陽道が通っていた。広い平野と河川、水運・陸運の要衝の地として、加古川下流一帯は古墳時代から東播磨の中心地であったといえよう。

## 第2節 史跡整備事業の概要

西条古墳群の立地する台地は、前述した昭和38年度以降の大規模な造成によって一帯が宅地化され、景観が急速に変化していった。そうした中で、古墳を含む土地についても売却して宅地化する計画が出されたことから、市は古墳を保護するため古墳群を国指定史跡とし公有地化を図るべく、昭和47（1972）年に文化庁へ陳情書を提出した。翌昭和48（1973）年に国指定史跡に認定されると、翌年から順次土地の公有地化を進め、昭和52（1977）年にはすべての土地を取得することができた。

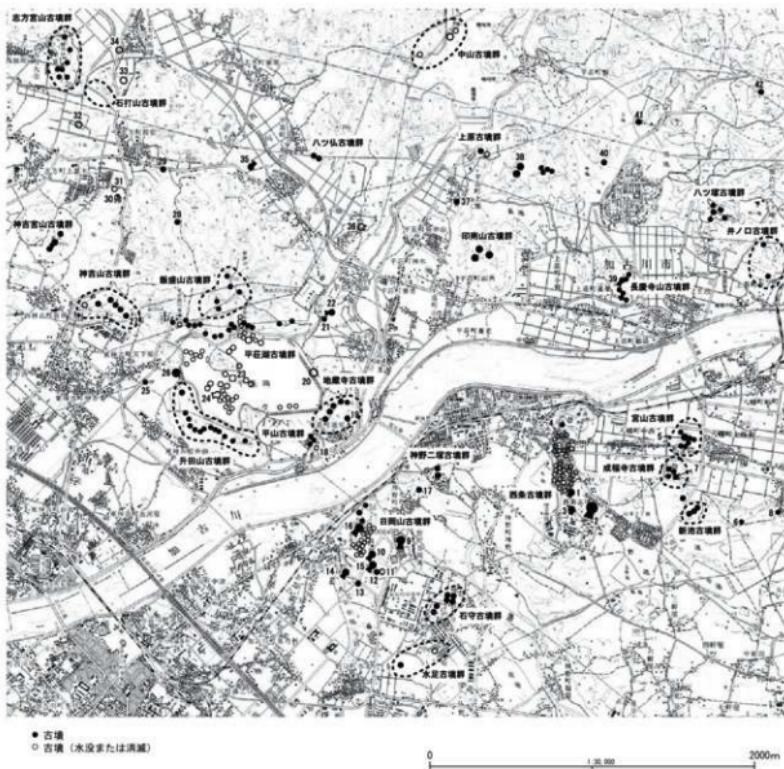
平成6（1994）年に兵庫県指定史跡西条庵寺の整備事業が完了したのち、加古川市教育委員会は西条古墳群の整備事業を本格的に開始した。古墳群の周辺は宅地開発が著しく、また、一部に墳丘を削られた古墳も存在した。そこで、市の文化財をむすぶ「加古川歴史文化ネットワーク」中の、古墳・古寺文化ゾーンとしてこの地区を重要遺跡保存地区に認定し、史跡整備の実施が計画されたのである。

同年に「加古川市西条古墳群史跡整備委員会」が発足し、第1回の委員会が開催された。翌年3月には、「西条古墳群史跡整備基本計画」が完成し、具体的な整備計画を策定するため、発掘調査によって古墳の基本的な情報を把握することが求められた。

これに基づき、まず行者塚古墳の発掘調査が平成7（1995）年から翌年にかけて発掘調査専門部会によって実施された。墳丘各地点の調査により、三段築成の墳丘と埴輪列が良好に残っていることが確認された。とくに造り出しの機能を考える上で重要な資料が得られ、また金銅製帶金具をはじめとして、舶来品を多く含む副葬品箱の豊富な出土品も注目された。

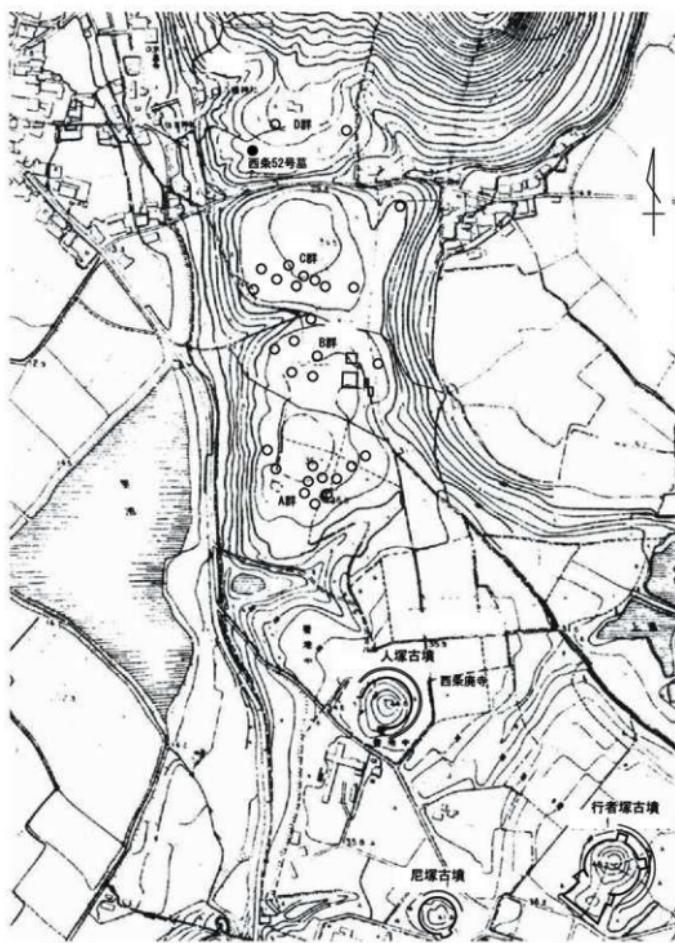
行者塚古墳の発掘では大きな成果を挙げられたものの、大量の出土品の整理に時間をする結果となった。平成9（1997）年にその成果の概要をまとめた発掘調査概要報告書を『行者塚古墳 発掘調査概報』として発刊したが、いまだ正式報告書の刊行には至っていない。同じ年には、大阪府立近つ飛鳥博物館の夏季企画展として『古墳の科学捜査 行者塚古墳発掘展』が開催され、成果の一端が報告された。また、翌年には加古川市教育委員会主催の文化財シンポジウム『開かれた古墳時代のタイムカプセル～行者塚古墳の調査から～』が開催された。都出比呂志、中司照世、千賀久各氏など著名な古墳研究者による研究発表と、発掘を担当した菱田哲郎、高橋克壽、森下章司、一瀬和夫各氏が報告をおこない、多くの聴衆を集めた。





1 人塚古墳	15 南大塚古墳	29 塚山古墳
2 行者塚古墳	16 日岡陵古墳	30 鏡塚古墳
3 尼塚古墳	17 若神社古墳	31 穴蔵古墳
4 西条52号墓	18 平山4号墳	32 二子塚古墳
5 八幡宮山大塚古墳	19 地藏寺古墳	33 寺山古墳
6 東沢1号墳・望塚	20 池尻2号墳	34 高烟古墳
7 成福寺古墳	21 西山大塚古墳	35 広尾二塚古墳
8 大日山遺跡	22 里古墳	36 小烟古墳
9 北大塚古墳	23 池尻16号墳(稚兒窟)	37 上原古墳
10 西大塚古墳	24 カンヌ塚古墳	38 天坊山古墳
11 東車塚古墳	25 天下原古墳	39 長慶寺山1号墳
12 西車塚古墳	26 升田山15号墳	40 小野古墳
13 狐塚古墳	27 神吉山5号墳	41 寺谷古墳
14 勅使塚古墳	28 山越古墳	42 白沢西山古墳

第3図 加古川下流域の古墳分布



第4図 西条古墳群の分布

そうした中で、古墳群の整備事業の進行が求められ、整備計画と関連付けて検討した結果、平成17年度の事業として尼塚古墳の範囲確認調査が実施された。墳丘各地点の調査により、二段築成の墳丘と埴輪列が残っていることが確認された。同古墳は平成19（2007）年に史跡整備工事を実施し、自然景観を生かした最小限の工事が行われた。繁茂する樹木の伐採と墳丘の欠損部分の盛土による補修、墳丘全体へ木製チップを散布して草木の生長を制御し、解説パネルなど説明板を置く工事が行われた。

平成20(2008)年と21(2009)年には行者塚古墳の整備工事が行われた。発掘調査によって重要な成果が得られた西造り出しについては、調査成果に基づいて復元整備を行ったほか、尼塚古墳同様、樹木の間伐や盛土による補修、エントランスの整備、解説パネルの設置などの工事を行った。西造り出しの復元では、斜面に葺石を再現し、平坦面上には埴輪やミニチュア土製品のレプリカを配置し、造り出しで行われた祭祀の様子を復元展示した。

行者塚古墳の整備工事と並行しながら、人塚古墳についても、墳丘の基本的な情報を得るという目的に基づいた発掘調査が計画された。すでに、平成15(2003)年には周濠部の部分調査が、平成20(2008)年には南西側壁面の清掃・観察調査が行われており、それに続くものとして平成21(2009)年に墳丘のトレンチ調査、平成22(2010)年に南東くびれ部分の調査、平成26(2014)年に南西くびれ部分の調査を行った。整備工事については、平成25(2013)年から着手し、墳丘への保護盛土、墳丘裾位置の表示、周濠範囲の明示、瓦窯跡の表示、エントランスの整備などを行い平成28(2016)年に完了した。